

第 59 回全国大会のご案内

大会準備委員長 川満直樹（同志社大学）

第 59 回全国大会は、2023 年 9 月 2 日（土）、3 日（日）、同志社大学今出川キャンパスで開催されます。是非ともご参加ください。大会テーマとプログラムの概要は以下のとおりです。大会プログラム委員会では、自由論題と準共通論題の報告者、およびラウンドテーブルを広く募集しますので、下記の募集要項に従ってお申込みください。

<大会プログラム委員会>

東部：石田幸生（亜細亜大学）、織田輝哉（慶應義塾大学）、寺島拓幸（文京学院大学）

西部：岩熊典乃（大阪産業大学）、小島秀信（同志社大学）、鈴木純（神戸大学）、

山岡淳（大阪成蹊大学）

1. 大会テーマについて

「商品社会の未来」

テーマの趣旨

現代の日本社会では、衣食住をはじめほとんどの生活手段が商品となっており、私たちの身の回りで商品にならないものはない。かろうじて商品化の波を避け得ているのはせいぜい大気や海水などであろう。「生活手段の全面的商品化社会」と呼ばれるほど、現在は商品と社会が密接かつ濃密に結びついた状況にある。そして今の時代を生きる私たちにとって、企業が提供する「商品（財、サービス）」を消費し生活することはごく自然になっている。私たちは生活に必要な商品を購入し、使用することに対し特に違和感もなく、またその意味を考えることすらしない。それほど私たちの生活の中に企業が提供する商品が入り込んでいるということになる。このような状況は日本だけのことではない。アメリカを含むいわゆる先進諸国でも同じような状態が看取されるであろう。

このような社会のことをここでは「商品社会」と呼ぶことにする。「商品社会」という言葉は一般的に使用されている言葉ではない。ここでの「商品社会」とは、上記した社会、すなわち企業が提供する商品（財、サービス）が社会に多く供給され、それら商品を積極的に使用している社会、あるいは生活手段のほとんどを商品を使用することによって成り立っている社会のことを示す。

高度経済成長期以降、日本では多くの商品が登場してきた。代表的な例をあげると、冷蔵庫、洗濯機、白黒テレビの「三種の神器」、またカラーテレビ、カー（乗用車）、クーラーの「3C」などがあげられる。それらの商品が、人々に新しいライフスタイルを提供し、生活を大きく変えたことは誰もが否定しないであろう。また、それらの商品の登場は、私たちの生活を変化させただけでなく、価値観にも影響を与えた。例えば、洗濯は家事労働の中で

ももっとも重労働だと言われてきた。洗濯とは「洗う・濯ぐ・絞る・乾かす」という一連の行為である。洗濯機の登場により、その一連の行為の中の「洗う・濯ぐ・絞る」を洗濯機が担い、私たちは「乾かす（干す）」という行為だけを行うようになった。現在、私たちが発する「洗濯をする」という言葉の内容は、先に示した四つの一連の行為をさすのではなく一つの行為のみを示すようになっており、洗濯機の登場以降、洗濯をすることに対する私たちの意識、捉え方が大きく変わったことがわかる。さらに今日ではその乾燥すらも一部の機種では洗濯機が担うようになってきているのだ。

このような生活の変化、そして私たちが生きる社会の変化をどのように説明したらよいのだろうか。私たちの生活や社会は、時間が続く限り変化をしていく。その変化の一面を「商品」という視点から見ると何が見えてくるのだろうか。

意外にも、これまで経済社会学会全国大会で「商品」が中心となったテーマはなかった。上記したように、現在、私たちは商品を使用せずに生活することは不可能に近いと思われる。それほどまでに私たちの生活に入り込み、私たちの価値観にも影響を与えている商品を経済社会学会第59回全国大会で取り上げる意義は十分にあると思う。

2. 大会プログラムの概要

* 共通論題について

「商品社会の未来」をテーマに、経済学や社会学など本学会が扱って立つ研究領域から3名の方にご報告いただき、予定討論を受けたうえでパネル・ディスカッションを展開します。この共通論題の内容や構成についてはプログラム委員会で検討し、設定いたします。

* 準共通論題とラウンドテーブルについて

大会プログラム委員会では、上記の共通論題と通常的自由論題以外にも、「準共通論題」：大会テーマに関連した論題の報告数本を1つに集めたセッション、ならびに「ラウンドテーブル」：会員から提案されたテーマに即して1本以上の研究報告をめぐり、問題意識を共通する数名以上の参加者が自由に意見交換する場を設定する予定です。どうぞ積極的にお申込みください。

3. 自由論題と準共通論題の報告、およびラウンドテーブルの設定について [募集要項]

大会プログラム委員会では、自由論題と準共通論題の報告、およびラウンドテーブルの設定について下記の要領により募集します。また、本学会には、「若手研究者支援制度 [唐澤基金]」がありますので、対象となる会員の方は積極的にご利用ください。

(1) 報告の申し込みと締め切り、結果通知および注意事項

◆申し込み：

Eメールのタイトルを「経済社会学会報告申込（氏名）」とし、氏名、所属、論題、Eメ

ールアドレス、連絡先住所、電話番号（携帯電話が望ましい）を示し、論題・所属・氏名を記した「報告の概要」（MS Word 形式で、600 字程度、目的・方法・考察・結論を明示した内容）を添付して、大会事務局の E メールアドレス (soes2023@mail.doshisha.ac.jp) までお申し込みください。なお、ラウンドテーブルの設定を希望される場合は、①テーマと趣旨、②報告 2～3 本（論題・所属・氏名・概要）、③3 名以上の参加者（報告者を含む）を添えてお申し込みください。

◆締め切り：2023 年 5 月 9 日（火）

◆結果通知：

報告の可否については、大会プログラム委員会にて、提出された「報告の概要」をもとに検討したうえで、6 月上旬の東西合同役員会終了後、6 月下旬までに、報告の日時および座長・予定討論者などと合わせて E メールにてお知らせします。

◆注意事項：

①原則として、申し込み後に論題および報告者の変更・追加はできませんので、ご注意ください。

②会費納入について：

今年度（2022 年 9 月～2023 年 8 月）までの会費を完納していることが報告の前提条件となります。会費が未納の方には、このニューズレターとともに会費請求書と払込用紙が同封されています。非会員の方は、4 月末までに入会手続きと会費納入を完了してください。入会手続きおよび会費納入先は、下記の学会 HP をご覧ください。また、その場合は、報告申し込みのメールに「入会手続き中」である旨を明記してください。

※経済社会学会「入会」（<https://www.waseda.jp/assoc-soes/join>）

③「若手研究者支援制度 [唐揮基金]」の適用を希望される場合は、全国大会報告の申し込み時に事前の申請が必要ですのでご注意ください。なお、この制度について、詳しくは経済社会学会「若手研究者支援制度 [唐澤基金]」（<https://www.waseda.jp/assoc-soes/karasawa>）をご覧ください。

(2) 報告要旨の提出

報告要旨集を作成しますので、報告される方は、その原稿を以下の作成要項に従って作成し、2023 年 7 月 21 日（金）までに E メールにて大会事務局にご提出ください。

大会事務局メールアドレス：soes2023@mail.doshisha.ac.jp

報告要旨は全国大会ホームページにて公開されます。

◆報告要旨の作成要項：

分量は A4 版 4 ページ以内（図表含む）。MS Word 形式で作成された文書 (.docx) で、書式はフォント：MS 明朝 10.5 ポイント、改行幅 1 行、ページ番号なし、余白：上下左右 30mm。論題を 1 ページ上段中央に、氏名（所属）を次の行右端に記載してください。

(3) 発表原稿の提出

報告される方は、上記の報告要旨以外に、大会で発表される報告内容の詳細や議論の流れを把握できる「発表原稿」(フルペーパー等)を E メールにて 2023 年 8 月 18 日(金)までに座長・討論者・大会事務局にそれぞれご送付ください。

発表原稿は全国大会ホームページにて公開されます。

(4) 発表原稿等の配布

報告資料や発表原稿を会場で配布する場合、報告者自身でご準備ください。

(5) 大会の実施方法

対面で開催しますが、万一、開催方法に変更等がございましたら「第 59 回全国大会ホームページ(近日公開)」に掲載します。

(6) 懇親会の開催

9 月 2 日(土)夕方から懇親会の開催を予定しております。今後の社会状況を鑑み、中止となる場合もあります。懇親会費は、接触を避け、事務負担を軽減させるため、基本的に事前振り込みを予定しております。詳細につきましては後日お知らせいたします。

(7) 大会参加費の徴収

大会参加費につきましても、接触を避け、事務負担を軽減させるため、基本的に事前振り込みを予定しております。こちらも詳細につきましては後日お知らせいたします。

(8) 昼食

周辺の飲食店を各自でご利用ください。

(9) 問い合わせ・提出先

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学商学部 小島秀信研究室気付
経済社会学会第 59 回全国大会事務局
Email : soes2023@mail.doshisha.ac.jp